

土壌診断 基礎ガイド

今月は「土づくり対策(深耕・有機物の施用・土壌診断方法と活用)について」

【1】深耕～根群域の拡大～

ち密で硬い土壌では、根の伸長が阻害され、根群分布が浅くなる。
 このような土壌では根の活性が低下し、肥料成分の吸収も抑制されるため収量も向上しない。

↓対策は・・・プラウ・サブソイラでの深耕



プラウ
 団粒化の促進と
 有効土層を拡大
 させる効果。

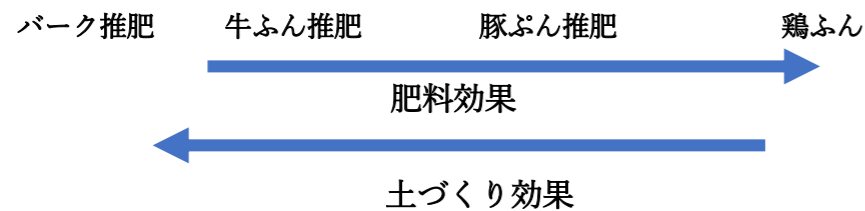


サブソイラ
 耕盤破碎を行う
 余剰水を下層へ排出し
 根群域の拡大効果。

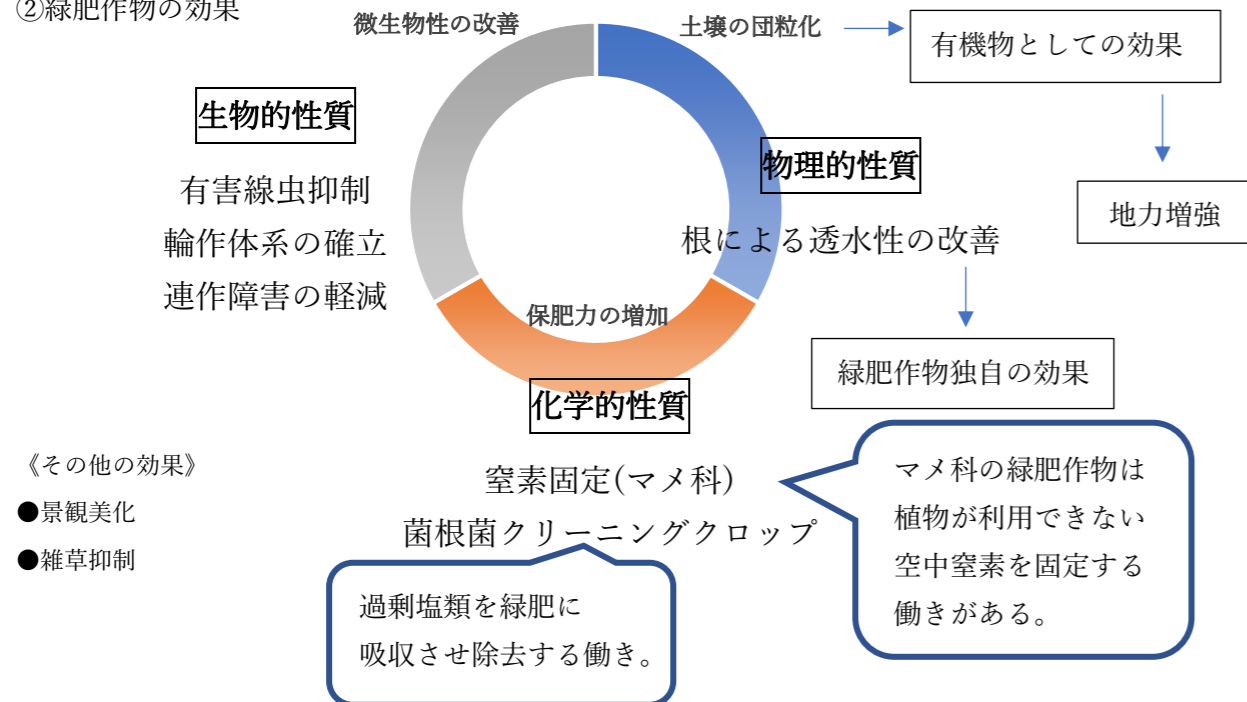
【2】有機物の施用

①畜種別堆肥の効果

土壌の物理性・化学性・生物性の全ての改善に有効であり、地力の維持・向上を図る。
 有機物を施用して地力をつけましょう。



②緑肥作物の効果



《その他の効果》

- 景観美化
- 雑草抑制

【3】土壌診断方法と活用について

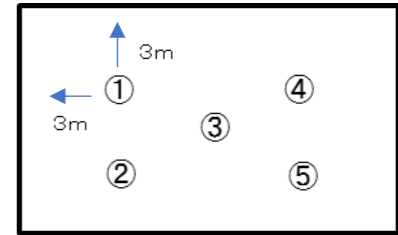
正しい分析用土壌の採取方法

①土を採取 (作土・深さ15cm位:果樹は30cm)
 表層約1cmを取り除き、右記図のように5ヶ所から採取する。



(肥料が入らないように注意する)

- ②日陰で乾燥させる
- ③ふるい(2mm)におとす
- ④約ご飯茶碗1杯分を袋に入れる
- ⑤伊仙町農業支援センターもしくは伊仙町役場経済課に土を持っていき、土壌診断依頼書を記入(受付)する



ポイント

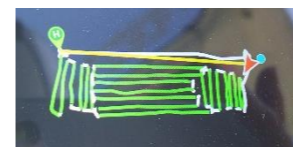
- 乾燥・ふるいがけが不十分な場合は正確なデータが測れません。
- 土の取り方によっては分析データに誤差が生じますので正しく取りましょう。
- 四隅には養分が溜まりやすいので離して採取する。

※土壌診断では、これまでに行ってきた肥培管理結果を示しており

結果が不適正な場合は肥培管理の見直しが必要です。

土壌診断の活用が適正施肥の第一歩となります。

大切なのは土づくり!!



【土壌診断 基礎ガイド】で取り上げてほしいことなどなんでもご相談ください。

来月号は・・・「施肥管理と夏植えに向けた土づくりについて」